

気象衛星「ひまわり」を活用した海況状況監視システムの開発

Development of an ocean monitoring system with the meteorological satellite "Himawari"

渡部 重十¹、*嘉賀 雄一¹

Shigeto Watanabe¹, *Yuichi Kaga¹

1. 北海道情報大学

1. Hokkaido Information University

我が国において、少子高齢化の影響による第1次産業の跡継ぎ問題が深刻化している。離漁師が増加する一方、若者が漁師として定着していない。漁師の勤や長年の経験で行われていた（可視化できない）作業や知識を引き継ぎ出来ない現状がある。若者の漁師不足は日本の水産業を維持・発展する上で深刻な問題である。

地方の漁師の漁獲量の変化は大きく、また空振漁は燃料代の無駄になり、魚師の生活を圧迫しかねない。漁獲量は海上の風向・速度、海流の方向・速度、海水温、植物性プランクトンの分布状況に左右されている。これらのパラメータは、気象庁やJAXAが取得している膨大なデータ（ビッグデータ）から推定できる。しかし、漁師の期待に沿うようなデータではなくデータの扱いも困難である。

地方の活性化を図る目的で、iPadやiPhoneで日本近海の海況を監視できるアプリを我々は開発している。本講演では、気象衛星「ひまわり」の最新データを用いて雲分布・海面温度・クロロフィルaの分布を求め、閲覧できるシステムを紹介する。

キーワード：気象衛星ひまわり、海況状況、ビッグデータ

Keywords: meteorological satellite "Himawari", ocean monitoring, big data